

医療系学生に対する B 型肝炎ワクチン接種結果および 追加接種に関する報告 -4年間の検討-

広島大学保健管理センター

杉原美由紀, 日山 亨, 古本直子, 高橋涼子, 矢式寿子, 石原令子,
松山まり子, 山手紫緒, 河内桂子, 横崎恭之, 吉原正治

【はじめに】

B 型肝炎ウイルスは、血液を介して感染する病原体である。発症者の 1%は劇症化の可能性があり、医療系学生に B 型肝炎ワクチンを接種して、臨床実習の際の感染リスクを減らすことは重要である。今回、当センターにおける B 型肝炎ワクチン接種学生および接種後抗体価が陰性・弱陽性であり追加接種を行った学生について検討したので報告する。

【対象と方法】

2008～11 年までの 4 年間に、当センターにおいて B 型肝炎ワクチン接種および HBs 抗体検査 (CLIA 法) を実施した学生 999 名を対象とした。B 型肝炎ワクチンは酵母由来組み替え沈降ワクチン (ビームゲン™) を使用し、0.5ml を、初回・1 ヶ月後・6 ヶ月後に上腕に皮下注射した。ワクチン接種後の抗体価は陽性 (20.0 mIU/ml 以上)、弱陽性 (10.0 以上 20.0 未満)、陰性 (10.0 未満) に分類した。追加接種対象者は、ワクチン 1 クール (3 回) 接種後の抗体価が陰性もしくは弱陽性の者のうち希望者とした。陰性者には 1～3 回、弱陽性者には 1～2 回、ワクチンを、初回から約 12 ヶ月後より接種した。

統計解析はカイ2乗検定を用いた。

【結果】

接種者は、男性 439 名、女性 560 名、平均年齢は男性 23.1 歳・女性 21.8 歳であり、年代は男女とも 20-24 歳がそれぞれ 86.1%、87.2%であった。

B 型肝炎ワクチン 1 クール接種後、HBs 抗体が陽性となった者は 999 名中 936 名 (93.7%)、弱陽性は 28 名 (2.8%)、陰性は 35 名 (3.5%) であった。ワクチン 1 クール後、HBs 抗体検査陰性の者 13 名に 2～3 回追加接種をしたところ、13 名中 10 名 (76.9%) が陽性となり、1 名が弱陽性、2 名が陰性のままであった。ワクチン 1 クール後、HBs 抗体が弱陽性の者 12 名にワクチン 1～2 回を追加接種したところ、12 名中 6 名が陽性となり、5 名が弱陽性、1 名が陰性であった。

【考察とまとめ】

B 型肝炎ワクチン 1 クール接種により、ほとんど (陽性者 93.7%、弱陽性者を含めると 96.5%) のものは、HBs 抗体陽性となった。HBs 抗体陽転率は、男性より女性で良好であった。陰性者、弱陽性者への追加接種の適切な回数については、今後も検討していく必要がある。

解析にあたり、本研究の一部は「肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究」班 (疫学班) の補助による。